

たまねぎレポート【348号】



平成28年10月26日

阪南青果株式会社

社 内 報

9月の天候は、前線が本州付近に停滞したことや台風の影響で、東日本以西で日照時間がかなり少なく、降水量が多かった。平均気温は全国的に高く、沖縄・奄美ではかなり高かった。10月に入ってから月前半は気温の高い日が多かった。降水量と日照時間は地域差があり、九州地方は天候不順で雨天曇天の日が多く、農作業が後ズレ傾向にある。8日には阿蘇山が噴火、21日には鳥取地方で強い地震があり、家屋や農作物にかなりの被害が発生した。

気象庁が発表した11月～1月の3カ月予報では、此の期間の平均気温は、西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は低く、寒い冬になり、北・東日本も平年並みで、暖冬の可能性は少ない。降水量は、北日本と西日本の日本海側で平年並み亦は多い。月別予報は次の通り。

11月、北・東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、太平洋側では平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年同様曇りや雨の日が多い。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多く、太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない。東・西日本の日本海側では、平年と同様に、曇りや雨または雪の日が多く、太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多く、太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りの日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

9月の主要市場の野菜の入荷は、前年同月比で総じて減少し、平均価格は総じて前年を下回ったが、台風被害の大きかった北海道産地のウエイトの高い札幌市場の入荷は、2桁減で価格も前年比2桁高となった。今年2月に新市場に移転した福岡市場の入荷は、連続して前年を上回った。札幌市場の入荷は、前年比89%で落込みが大きく、平均単価はkg¥199前年比112%であった。東京市場の入荷は、前年比99%、平均単価はkg¥270前年比95%。名古屋市場の入荷は前年比98%、平均単価はkg¥246前年比96%。大阪本場の入荷は前年比98%、平均単価はkg¥266前年比98%。福岡市場の入荷は前年比101%、平均単価はkg¥210前年比96%となっている。

9月の玉葱の主要市場の入荷は東京以外は前年同月比28%～9%増

で、平均単価は前年比26%～33%高で夏の高値相場の余波を引き継いだ動きであった。北海道の台風被害情報は実態より過大視されたことも価格に影響した。札幌市場の入荷は6,210トン前年比117%、平均単価はkg¥104前年比132%。東京市場は11,133トンの入荷で前年比94%、平均単価はkg¥126前年比133%。名古屋市場の入荷は6,574トン前年比110%、平均単価はkg¥112前年比126%。大阪本場の入荷は3,428トン前年比109%、平均単価はkg¥132前年比129%。福岡市場の入荷は4,341トン前年比128%、平均単価はkg¥136前年比126%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の9月の販売量は、101,768トン前年比102%(前月比116%)。平均単価はkg¥168前年比96%(前月比117%)となっている。販売量が前年比増となった品目はピーマン(前年比128%)、ナス(＼122%)、トマト(＼116%)、タマネギ(＼115%)など8品目。前年比減となったのは、ニンジン(前年比67%)、ダイコン、サトイモ(＼82%)、ホウレンソウ(＼83%)など6品目。価格が前年比高となったのは、ニンジンがkg¥281で前年比102%高、ジャガイモがkg¥158で48%高、タマネギがkg¥113で28%高、など6品目。前年比安は、ピーマンがkg¥306で前年比31%安、キャベツがkg¥90で29%安、レタスがkg¥176で27%安など8品目となっている。ニンジンは北海道産地が、台風被害で出荷が激減したため、入荷減で異常高となった。

東京都中央卸売市場の9月の野菜の入荷は、131,610トン前年比99%(前月比102%)であった。主要品目で前年比増となったのは、トマトが前年比128%であったのを始め、ナスが122%、ピーマンが121%など6品目(前月は9品目)。前年比減となったのは、ニンジンの前年比81%を始め、ホウレンソウ・ダイコンが83%、パレISHヨが90%など9品目(前月は6品目)。平均単価はkg¥270前年比95%(前月比115%)となっている。旬別の平均単価は、

上旬¥261、中旬¥270、下旬¥279と右肩上がりで推移した。タマネギは、
上旬¥143、中旬¥126、下旬¥126で右肩下がり乍ら高水準を維持した。

東京都中央卸売市場の9月の入荷量と単価

品目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	131,610	98.7	102.4	270	95.0	114.9
たまねぎ	11,133	93.6	118.3	126	133.3	74.1
キャベツ	16,932	107.3	102.7	96	67.5	137.1
トマト	8,556	128.2	80.2	329	73.2	125.6
だいこん	11,218	83.2	129.9	134	120.9	113.6
ばれいしょ	7,410	89.5	114.0	171	142.8	116.3
きゅうり	7,626	111.0	84.2	314	83.8	151.0
にんじん	6,359	81.0	94.9	271	175.4	186.9
レタス	9,674	118.5	94.7	229	72.7	157.9
はくさい	10,490	99.3	174.1	91	71.3	159.7
かぼちゃ	3,235	94.5	127.9	198	104.7	91.7
ながいも	937	85.7	93.1	441	118.1	103.3
れんこん	838	89.0	175.0	534	101.0	89.5
にんにく	253	91.3	91.0	1094	119.0	103.3

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の9月の玉葱の入荷は、11,133トン前年比94%（前月比118%）で月前半は品薄傾向が続いた。特に、上旬は出荷の最盛期を迎えた北海道産地が台風被害で、出荷が後ズレしたことが影響し、高値を維持したが、台風の大被害を蒙った地区以外は豊作で、月後半からは潤沢な入荷が

続き市況は軟化した。市場は北海物主力の販売で、北海物の入荷は10,003トン前年比90%、占有率は90%で前年比5ポイントダウン。中国物は953トンの入荷で前年比234%、占有率は9%で前年比6ポイントアップ。兵庫物は131トンの入荷で前年比94%、占有率は1%で前年も1%で同じ。平均単価はkg ¥126前年比133%(前月比74%)、北海物の入荷回復と共に市況は日毎に軟化した。産地別の月平均価格は、北海道物がkg ¥129前年比138%、兵庫物はkg ¥239前年比126%、中国物はkg ¥84前年比95%であった。

10月に入り、北海物の入荷は順調で、入荷増の販売減で、何れの市場も置き場が満杯状態になった。成り行き販売で在庫捌きに努めるも、買手不在で苦戦が続いた。特に、大粒傾向で2Lサイズの比率が高く、日々滞貨が増加し、相場はぎりぎり貧状態となった。中旬には、主力のホクレン物の希望値も値下がりしたが、引き合いが弱く価格維持は厳しい状態が続いた。現在も、荷動きは鈍く在庫整理は進んでいない。ランニングストックには量的な問題のほか、品質劣化の懸念があり、大口の転送需要向けには、安値販売も止む無しの厳しい状況にある。上、中旬の販売量は前年比97%にとどまっている。相場は底値圏内に近付いているものの、此の先の入荷次第では一段安が懸念される。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の9月の玉葱の入荷量は、6,574トン前年比110%(前月比191%)で潤沢であった。北海物の独断場で入荷は6,480トン前年比111%、占有率は99%で前年比1ポイントアップ。中国物の入荷は79トン前年比167%、占有率は1%で前年と同じ。平均単価はkg ¥112前年比126%(前月比64%)で日毎に軟化したものの例年になく高値を維持した。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥112前年比126%。中国物はkg ¥79前年比141%となっている。

10月に入り、入荷は増加傾向が続いたが、荷動きが鈍く在庫は日々増加した。産地の希望値維持の販売を志向するも、量が捌けず在庫が増えた。売れ

行き不振だった2Lが、多少球流れが改善されたことや、業務筋の動きがやや回復したことで、在庫が減少した。反面、L大、Lは引き合いが弱く荷凭れが続き、相場はズリ安となった。現在も荷動きは鈍く、在庫を抱えながらの販売を続けている。日々在庫を増やさない方針で販売に努めている。転送業者からは、安値の売り込みがあるが断っている。今のところ市況回復の目途はないが、此の先大きく値下がりすることはないと踏んでいる。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の9月の玉葱の販売量は、3,428トン前年比109%（前月比116%）で順調であった。主力は兵庫物から北海物に移行した。北海物の入荷は2,942トン前年比117%、占有率は86%で前年比6ポイントアップ。兵庫物は418トンの入荷で前年比69%、占有率は12%で前年比7ポイントダウン。中国物は58トンの入荷で前年比518%、占有率は2%で前年比2ポイントアップ。平均単価はkg¥132前年比129%（前月比65%）で前年比では3割高となったものの、前月比では3割安の続落歩調となった。産地別の平均単価は、北海物はkg¥116前年比134%、兵庫物はkg¥254前年比152%、中国物はkg¥72前年比129%となっている。

10月に入り、北海物の入荷は潤沢、淡路の冷蔵物は減少傾向となった。相場は北海物は弱保合、淡路物は保合の動きとなった。北海物は日々完売出来ず売れ残りが増加した。2Lの比率が改善したことや、給食需要が回復したことで、2Lは完売、L大、Lが荷凭れで在庫が増えた。月半ばには、淡路物は品薄で一段高、北海物は買い気が鈍く、相場は日々軟調で安値¥1,400維持が困難になった。現在も、北海物は入荷増で弱保合、大口筋には¥1,250～1,200の安値販売もある。淡路物も高値反動で弱保合に転じている。上、中旬の販売量は前年比117%、平均単価はkg¥91で前年比105%。此の先相場は底値圏内が近いと見ている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の9月の玉葱の販売量は、4,341トン前年比128%（前月比121%）で潤沢であった。京浜、関西市場に比べ市況が割高で推移したことで、特に北海物の入荷が急増した。主力の北海物の入荷は3,112トン前年比141%、占有率は72%で前年比7ポイントアップ。長崎物は471トンの入荷で前年比96%、占有率は11%で前年比3ポイントダウン。中国物は236トンの入荷で前年比96%、占有率は5%で2ポイントダウン。平均単価はkg ¥136前年比126%（前月比79%）で、前年比高前月比安で日々軟調に推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥136前年比132%、長崎物はkg ¥107前年比99%、中国物はkg ¥82前年比98%となっている。

10月に入って、北海物の入荷は順調であったが、在庫が増えないように拡販に努めた。特に、L大の動きが悪く、思うようには片付かなかった。愛媛の冷蔵物は少量で高値販売が続いている。月半ばには相場が値下がりしたことで、北海物の滞貨はほぼ片付き、ランニングストックは正常に回復した。大口の量販店向けは安値契約で拡販を図ったため、採算割れとなったが、在庫処分が出来た。現在は、正常の在庫はあるものの、他野菜の高値で代替需要もあり、それなりに捌けている。昨年と比べるとやや腰が軽い。愛媛物はkg ¥300の高値販売が続いている。上、中旬の販売量は、前年比173%、平均価格はkg ¥118で前年比122%である。

10月25日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷220トン、弱い

北海道 20kgDB2L ¥1,300～1,100、L大 ¥1,600～1,150、L ¥1,600～1,150、
M ¥1,300～1,250。

北海道 20kgNT2L ¥1,150～950、L大 ¥1,100～900、L ¥1,150～900、
M ¥1,000～900、S ¥550～500。

【太田市場】 入荷271トン、保合

北海道 20kgDB2L¥1,300～1,100、L大 ¥1,500～1,200、L ¥1,400～1,200、
M¥1,300～1,200。

【名古屋北部】 入荷137トン、強保合

北海道 20kgDB2L¥1,300～1,200、L大 ¥1,500～1,300、L ¥1,500～1,300、
M¥1,400～1,300。

【大阪本場】 入荷80トン、強保合

北海道 20kgDB2L¥1,400～1,250、L大 ¥1,500～1,300、L ¥1,500～1,300、
M¥1,300～

兵庫 10kgDB2L¥2,800～2,500、L ¥3,000～2,700、M ¥2,700～2,400、
S¥2,100～2,000。

【福岡市場】 入荷127トン、保合

北海道 20kgDB2L¥1,400～1,200、L大 ¥1,500～1,300、L ¥1,500～1,300、
M¥1,500～1,300。

愛媛 10kgDB2L¥3,200～3,000、L ¥3,200～3,000、M ¥2,800～2,700。

供給(産地)の動き

10月の野菜は、9月の天候不順で出回り量が総じて少なかった。北海道産地の台風被害や府県の日照不足が影響した。市場の平均単価は何れも前年同月比で2桁高が続いている。品目別市況は前年同月比で、入荷が前年比減で高値となった品目、前年並みで高値となった品目、前年比増で高値となった品目など様々だが、安値の品目は甘藷、きのこ類等数品目だけで、多くの品目で前年比高の市況が続いている。

玉葱は、主産地の北海道が台風被害と雨天曇天に阻まれ、遅れていた収穫・出荷が回復し、潤沢な出回りとなったことで、市況は続落歩調となり、大豊作で安値となった前年の安値に近付きつつある。農業関係の台風被害は昭和56年

以来の大災害となったが、玉葱の被害は一部地域を除き予想されたより軽く、全道的には豊作型となった。収穫・出荷の後ズレで、11月以降の市場向けの出回り量は、大豊作であった前年量に近いと見ているが、品質的には前年に比べやや見劣りがする。

府県産の冷蔵物は、在庫が14,200トン前年比83%強であったが、出荷は前進化しており、10月末在庫は淡路物が主力で前年比80%弱と見ている。

輸入は、7月から前年を上回る入荷が続いており、10月以降も増加傾向が続くと予想されている。輸入業界では、10月～来春4月の輸入量は149,000トン前年比18%増と予想している。他方、前年度は25,000トン強の輸出があったが、今年は5,000トン未満にとどまると見ている。

以上の状況から、11月以降の玉葱の出回り量は、前年並みか前年をやや上回る可能性があり、需要が増えない限り、今後の販売環境は更に厳しくなると予想している。

府県産地

府県産地の即売物の出荷は9月で終了し、現在の出荷は冷蔵物で主力産地は淡路である。冷蔵物は関西市場重点の販売となっているが、冷蔵物は在庫時の市況高で、今迄にないコスト高となっており、kg¥280以下の市場価格では採算に合わないと強気の指値販売を続けている。

府県産地では、既に次シーズンの育苗期であるが、主産地の佐賀では極早生の種不足や天候不順による苗立ち不良で、作付けの減少が心配されている。淡路では、種子の手当ては前年比98%が確保され、ほぼ前年に近い作付けが予想されている。昨今、全国的に玉葱栽培に関心度が高まり、小規模産地が増加傾向にある。

北海道産地

北海道産地では、台風被害による流失、廃耕で、栽培面積は270ha減少し、前年比98%になった。他方、主力産地の作柄が好転したことで、生産量は前

年比99%、出回量は前年比96%と予想されている。今年も球流れは大粒傾向で、台風後に道内産地を一巡したが、何れの地域の生産者からも、収量は予想したより多いとの声を聞いた。収穫、集荷容器の鉄コンが足りない話す生産者もあり、豊作を実感した。今年の玉葱市況は、府県産地の減収、特に佐賀では、栽培史上例のないベト病の大被害に見舞われ、ために近年にない夏高相場が続き、北海道産に引き継がれた。また、8月末の相次ぐ台風の影響で北海道、東北の農作物が大被害を蒙ったことで、9月相場も高値水準で推移した。8～9月の高値を経験した産地関係者の多くは、先行きに安堵感が広がり、収穫・出荷は後ズレ傾向となった。豊作を反映して、10月市況は産地の期待とは裏腹に2Lから軟化したが、昨今の市況は更に値下がり傾向で、再生産価格の維持が難しくなり、産地関係者は販売対策の見直しに苦慮している。

外国産地

9月の輸入は、速報値で、28,821トン前年比117%と報告されている。国別の輸入量は、中国が26,715トン前年比128%。アメリカが2,036トン前年比395%、ニュージーランドが50トン前年比417%、韓国が20トン前年は0となっている。

中国、主力産地の甘粛省では、収穫のピークは8月下旬～9月上旬で9月下旬に終了した。今年は収穫前の7月中旬～8月上旬に35℃を越える高温が続いたことで、作柄は平年作を下回り、その後は長雨に見舞われ品質的にも見劣りすると聞く。現在までの着荷品については問題が発生していない。現在の価格水準は20kg・C&F・ムキ玉 \$5.80、皮付き \$5.00 である。

アメリカ、貯蔵性玉葱の10月1日現在の産地在庫は前年比98%との情報があるが、前月までの入手情報では、作付け増で、反収増との報告であり、信憑性が懸念される。現在価格はリーファコンテナー積みで50㍍・C&F・ \$9.50～9.70 の水準だが、纏まった成約はない。

11月の市況見通し

8月末からの相次ぐ台風と、日照不足が秋冬野菜の生育を阻み、10月の需給は多くの品目でタイトになり、品薄高となった。11月も潤沢な出回りが期待薄の品目が多く、総じては前年比高の相場展開になると予想されている。玉葱は北海道物が豊作型となったことや、国際的な需給緩和で、輸入も前年比増が予想されることから、軟調な市況が続くと見ている。多少の品薄野菜の代替需要が見込めるほか、11月は北海道産地の出荷調整で、多少の変動はあるものの、鍋底相場となり、市況の回復は望み薄である。北海物は既に再生産価格を割り込んでおり、11月市況は北海物20kg・L大、L¥1,400～1,200、府県の冷蔵物は品薄高で、10kgL・M¥3,000～2,800を予想している。(了)